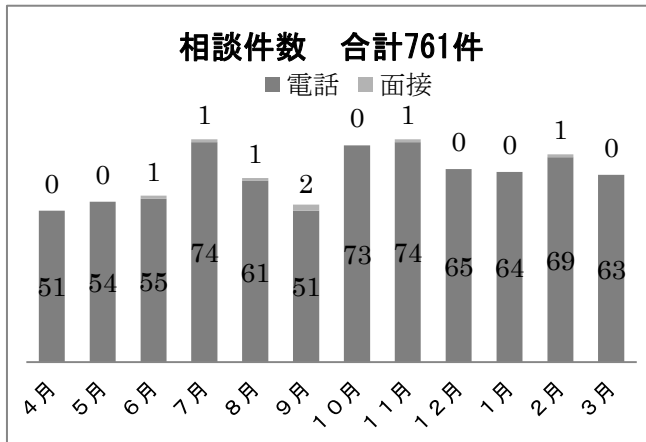


2018年度 ちば認知症相談コールセンター相談データ分析

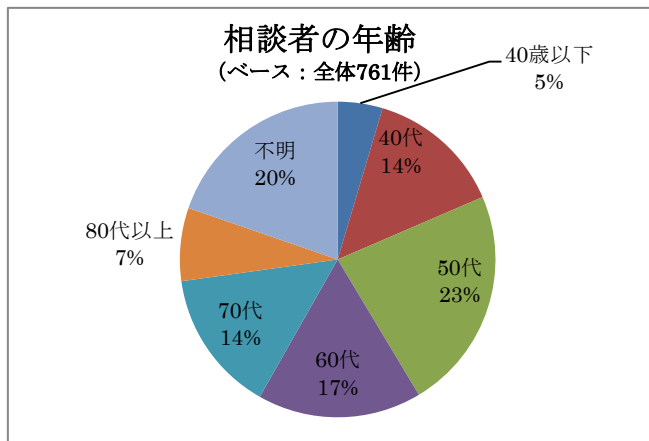
■相談件数:合計 761 件



相談件数は前年度の 759 件とほぼ同じ 761 件と横ばいであった。

■相談者の年齢

| 40歳以下 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 80代以上 | 不明 | 合計 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-------|-----|-----|
| 35 | 106 | 174 | 128 | 111 | 57 | 150 | 761 |

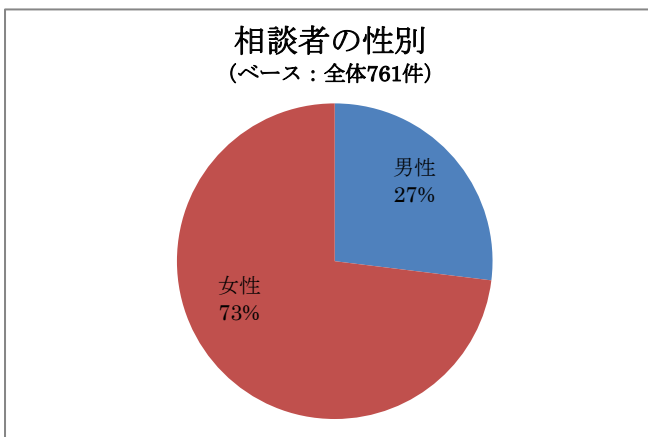


相談者の年齢は 50 代がやや多く、40代～70代まで合せると全体の 70%近くになっています。

幅広い年代から親の介護や配偶者の介護についての相談が寄せられています。

■相談者の性別

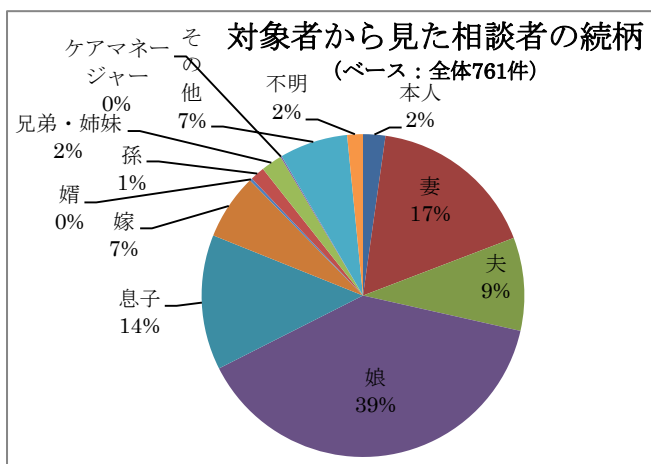
| 男性 | 女性 | 不明 | 合計 |
|-----|-----|----|-----|
| 205 | 556 | 0 | 761 |



2018 年度も女性からの相談が 73%と多く寄せられました。

■相談者と対象者との続柄(★対象者から見た相談者の続柄)

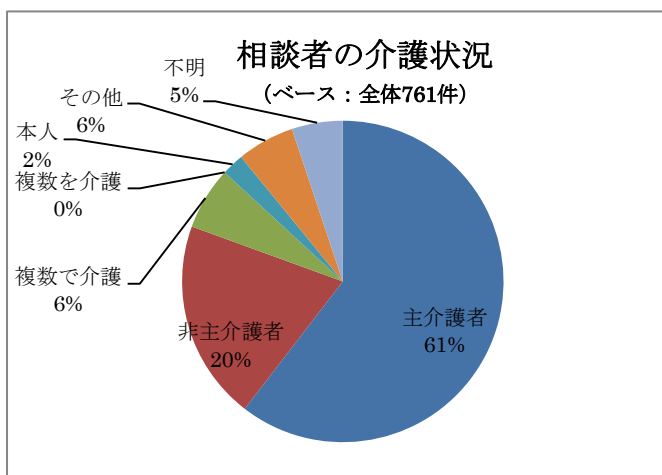
| 本人 | 妻 | 夫 | 娘 | 息子 | 嫁 | 婿 | 孫 | 兄弟・姉妹 | ケアマネージ | その他 | 不明 | 合計 |
|----|-----|----|-----|-----|----|---|----|-------|--------|-----|----|-----|
| 17 | 129 | 71 | 297 | 103 | 50 | 2 | 11 | 16 | 1 | 52 | 12 | 761 |



相談者は娘が最も多く 39%でした。2017年度と比較すると妻や夫、息子からの相談が増えて娘からの相談は 6%減少しました。

■相談者の介護状況

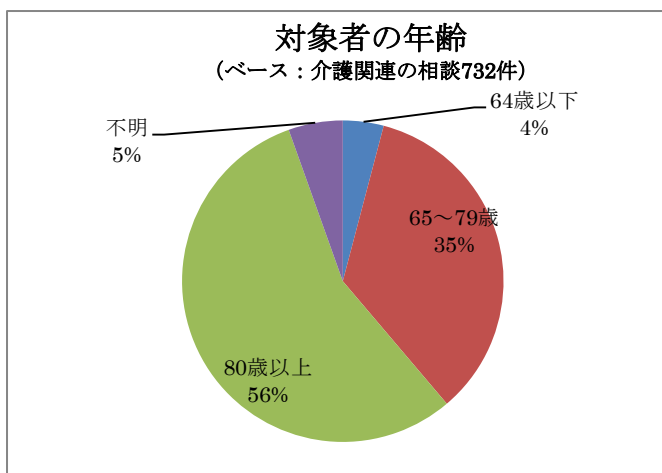
| 主介護者 | 非主介護者 | 複数で介護 | 複数を経護 | 本人 | その他 | 不明 | 合計 |
|------|-------|-------|-------|----|-----|----|-----|
| 460 | 153 | 48 | 0 | 17 | 44 | 39 | 761 |



相談者の 61%が主介護者でした。主介護者以外からの相談も 20%ありました。

■対象者の年齢

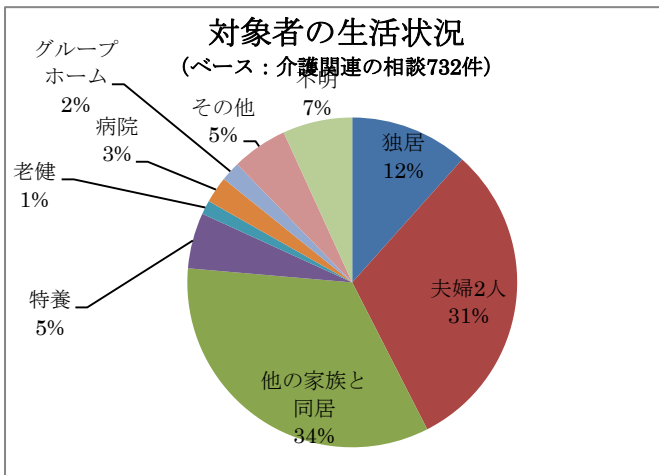
| 64歳以下 | 65～79歳 | 80歳以上 | 不明 | 合計 |
|-------|--------|-------|----|-----|
| 30 | 254 | 408 | 40 | 732 |



介護対象者の年齢は 80歳以上が 56%で、65歳～79歳までが 35%でした。全体の 91%の方が高齢者でした。

■対象者の生活状況

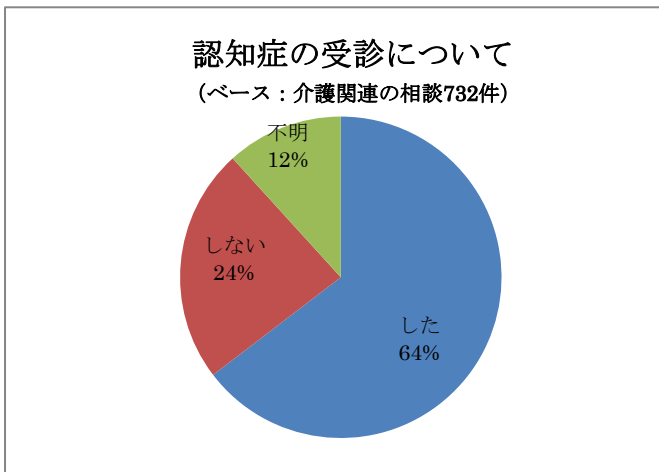
| 独居 | 夫婦2人 | 他の家族と同居 | 特養 | 老健 | 病院 | グループホーム | その他 | 不明 | 合計 |
|----|------|---------|----|----|----|---------|-----|----|-----|
| 85 | 226 | 248 | 40 | 10 | 19 | 14 | 40 | 50 | 732 |



認知症になっても在宅で生活をしている方が77%でした。内訳は独居が12%、夫婦2人世帯が31%、他の家族と同居が34%でした。

■認知症の受診について

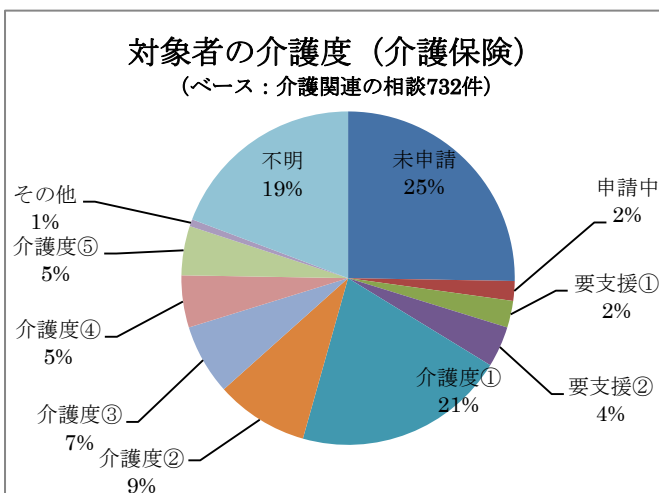
| した | しない | 不明 | 合計 |
|-----|-----|----|-----|
| 473 | 173 | 86 | 732 |



認知症の受診を行っての相談が64%でした。受診をしても様々な不安が生じてくるものと思われます。

■対象者の介護度(介護保険)

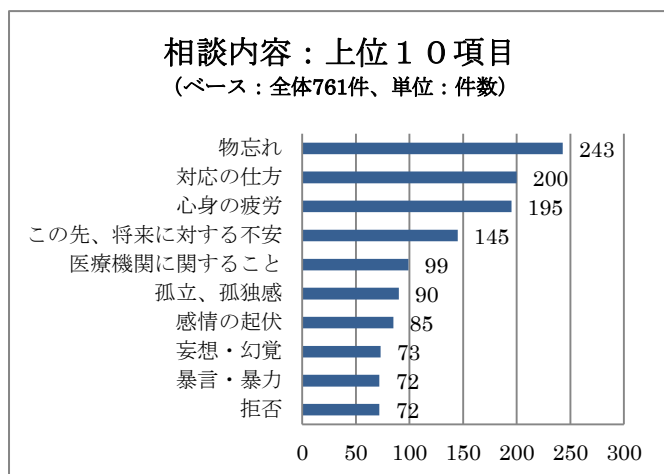
| 未申請 | 申請中 | 要支援① | 要支援② | 介護度① | 介護度② | 介護度③ | 介護度④ | 介護度⑤ | その他 | 不明 | 合計 |
|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|-----|-----|-----|
| 185 | 14 | 19 | 29 | 151 | 66 | 50 | 37 | 35 | 5 | 141 | 732 |



介護保険未申請の方からの相談が25%ありました。要介護1～3の介護者からの相談が37%と多く、切実な相談が寄せられるのもこの時期の介護者からでした。

■相談内容:上位10項目

| 拒否 | 暴言・暴力 | 妄想・幻覚 | 感情の起伏 | 孤立、孤独感 | 医療機関に関すること | この先、将来に対する不安 | 心身の疲労 | 対応の仕方 | 物忘れ |
|----|-------|-------|-------|--------|------------|--------------|-------|-------|-----|
| 72 | 72 | 73 | 85 | 90 | 99 | 145 | 195 | 200 | 243 |



相談内容は 2017 年度とほぼ同じでしたが、施設サービス利用に関する相談件数が減少しました。

物忘れに起因する問題行動で対応がわからず、ストレスがたまり、心身の疲労や将来に対する不安が高まり、孤立し、孤独を感じている現状がうかがえるようです。

■2018 年度の相談傾向

相談件数は前年とほぼ同じ 761 件でした。国や地方自治体で認知症に対する施策が進んできて、相談窓口も多様化してきています。認知症地域支援推進員や認知症コーディネーターなどが、認知症カフェの企画・運営にかかわる市町村もあり、身近なところで相談ができ支援してもらえる環境が整いつつあるようです。

一方で、本人の年齢 80 歳以上が 56% を占める現状と合わせて、夫婦のみの世帯が 31% ということは、介護せざるを得ない配偶者も高齢者であり老々介護の実態は明らかです。このことと関連して、実子からの相談が 53% (うち実娘が 39%) と最も多く、高齢の両親を案じての電話相談が含まれると推測できます。

また、認知症本人を抱え自分も含めて将来に対する不安を訴える件数が多いのは、老々介護の実態から当然のこととして受け止められます。

顔が見える相談 (つどい、交流会) も有意義で必要であるのと同時に、電話相談は特に高齢の介護者にとっては、自宅にいて相談ができるので欠かせない救いの場になっているようです。

認知症の介護家族が強いられる不安感、負担感、孤独感、心身ともに負うストレスによる疲弊感など、高齢の介護者にとっては厳しいものであることを理解しての支援が求められます。安心して「話せる場」「聴いてもらえる場」を見いだす事が介護者のストレス軽減に繋がる第 1 歩であると思います。

認知症になっても在宅で生活している人が 77% もいるということは、本人のみならず介護する家族の生活も保障されなければ「認知症があっても安心して暮らせる社会」とはなりません。コールセンターは相談者に寄り添って耳を傾け、溜めている悩みや愚痴を吐き出しストレスの発散できる場として、また介護を前向きに捉えられるような支援を今後ともしていきたいと考えています。